

平成29年度 事業報告書

NHK厚生文化事業団 平成29年度事業報告

時代とともに変化し多様化する福祉への新たなニーズに応えるため、事業団は、「発達障害」や「“ひきこもり”からの回復」「里親・特別養子縁組」「摂食障害」などをテーマにフォーラムを開きました。認知症については、フォーラムのほかに「認知症にやさしいまち大賞」という募集事業を新設。間近に迫る認知症700万人時代への取り組みを支援しました。

また、「インクルーシブ防災」をテーマに住民参加型のイベントを実施し、障害者や高齢者も漏れなく災害から守るためになすべきことを考えました。

障害者への理解を促進するイベントに力を入れました。パラリンピック選手を小学校に派遣して子どもたちと交流するイベントを継続したほか、2020年のパラリンピック東京大会の会場となる千葉でパラリンピック選手らを集め、東京大会への課題を話し合いました。

最新の福祉情報を必要な人に届けるため、NHK福祉番組などを貸し出す「福祉ビデオライブラリー」を継続して実施。事業団が独自にDVD教材を制作する事業も継続し、共にたくさんの方が活用しました。

また、改正社会福祉法の施行に伴う、財務規律の厳格化やガバナンスの強化、組織運営の透明化に合わせ、2020年までの中期経営計画を策定し、この中で3年間の収支見通しや事業方針を示しました。

東日本大震災の被災地を支援する取り組みも行いました。その中心の「わかば基金」では、基金の中に東日本大震災復興支援部門を設け、現地の福祉活動を資金面から後押しする事業を継続しました。

このようにNHK厚生文化事業団は29年度、NHKの放送と連携し多様な福祉事業を実施しました。

○最新の福祉課題に正面から取り組み、理解促進と支援を促す

DVD教材「“ひきこもり”からの回復」の一部を盛り込み当事者への理解と支援についてフォーラムを実施したほか、「発達障害」や「摂食障害」「インクルーシブ防災」のフォーラムを行い、多様な福祉情報を提供しました。認知症については全国7か所でのフォーラムに加え、「認知症にやさしい」全国各地の取り組みを選考して表彰する事業を行い、共生社会に向けての活動を後押ししました。

○事業団ならではの募集事業や公開イベントを放送と連携して行い、多様なスタイルで福祉情報を発信していく

「障害福祉賞」「銀の雫文芸賞」「めざせ！いきいき長寿」を継続して番組と連動して実施し、高齢者・障害者福祉に資する情報を発信しました。

○パラリンピック関連イベントを番組連動で実施

「パラリンピアンがやってきた！子どもたちの交流教室」に加え、2020年大会の競技会場となる千葉で番組連動イベントを実施し、障害者への理解促進に努めました。

○きめ細かい福祉情報の提供

「福祉ビデオライブラリー」では、「“ひきこもり”からの回復」「発達障害」「うつ病」など、事業団制作教材の貸出数が増加しました。またホームページやフェイスブックでイベントの内容をわかりやすく掲載し、参加できなかった人たちへ情報を届けることにも努めました。

○東日本大震災の復興支援をはじめとし、全国の小さな福祉現場を応援していく

「わかば基金」による被災地支援や、被災地の福祉施設の「製品販売会」などを行い、

東日本大震災の被災者や復興のために活動するグループへの支援に力を注ぎました。

○NHKグループの一員としてすべての役職員の行動において、リスクマネジメントを推進し、コンプライアンスを徹底する

社会福祉法の改正に適切に対応するとともに、NHKと連携してガバナンスの強化に努めました。

目 次

1. 障害者福祉事業	2
2. 高齢者福祉事業	8
3. 東日本大震災復興支援事業	11
4. 福祉情報の提供事業	11
5. チャリティー事業	14
6. その他の支援事業	15
7. 広報活動	19
8. リスクマネジメントとコンプライアンス	20
9. 後援・協賛した事業	21
10. 寄付金	22
11. 賛助会員・維持会員等	23
12. 役員	25

〈 資 料 〉 ・ 事業概要一覧

1. 障害者福祉事業

(1) こどもの発達相談会および療育キャンプ

○こどもの発達相談会

大阪、名古屋、福岡において、ことばや発達の遅れた子どもとその親の相談会を14回実施した。知的や言語の発達のおくれ、自閉スペクトラム症（ASD）や学習障害（LD）、注意欠如・多動症（ADHD）などの子どもの相談が多かった。

大阪	6回	相談件数	134件
名古屋	4回	相談件数	83件
福岡	4回	相談件数	49件

○親と子の療育キャンプ

発達に遅れのある子どもたちが、例年夏休みに愛知県豊田市の自然の中で集団生活を体験する「やまびこキャンプ」を予定通り実施。

8月10日～12日 愛知県豊田市

参加者
89人

(2) 肢体不自由児・者の療育活動

肢体不自由児・者の療育キャンプを、支援団体との共催・協力により、各地で実施した。夏季、冬季の野外活動を通じて、参加者の自立と社会参加を促進し、あわせて交流の輪を広げた。

なお、2月に神戸市六甲山で実施を予定していた「第45回 雪遊びのつどい」は、ボランティアが集まらず中止された。

○第49回 フレンドシップ・キャンプ

9月 2日～ 3日 兵庫県豊岡市

参加者
47人

○第49回 高木記念山中キャンプ

8月22日～26日 山梨県山中湖村

92人

○第29回 雪と遊ぼう 親と子の療育キャンプ

(平成30年) 1月 6日～8日 新潟県南魚沼市

103人

合計：242人

(3) NHKハートフォーラム（発達障害）

自閉スペクトラム症（ASD）や学習障害（LD）、注意欠如・多動症（ADHD）などについて、NHKの地域放送局や「親の会」、「支援団体」などと共催し、NHKハートフォーラムを7回開催した。

29年度は、「発達障害の乳幼児」や「災害時における自閉症・発達障害の人たち」、「大人の自閉スペクトラム症」、「強度の行動障害のある自閉症の人たち」への支援などをテーマに取り上げた。

			参加者
6月25日	山口県宇部市	「行動障害があり、手厚い支援が必要な 自閉症の人たちの生活を考える」	205人
7月17日	和歌山県田辺市	「災害時における自閉症・発達障害 の人たちへの支援」	209人
9月18日	大阪市	「発達障害の子どもへの理解と支援 ～乳幼児期発達障害のサイン」	338人
10月9日	仙台市	「大人の自閉スペクトラム症」	184人
12月17日	富山市	「ともに、輝く。～多様性のある社会へ」	163人
(平成30年)			
2月4日	名古屋市	「実は身近な発達障害 意思決定支援ってなんだろう？」	453人
2月18日	長崎市	「自閉症の人たちの豊かな未来のために」	215人
合 計：			1,767人

(4) NHKハートフォーラム (境界性パーソナリティ障害)

10代から30代の若い人のうつや摂食障害などにひそむ「境界性パーソナリティ障害」を、当事者や医師らの話から、本人や家族が共に生きやすくなるにはどうしたらいいか考えた。

			参加者
6月11日	大阪市	「境界性パーソナリティ障害 ～回復は大きならせん階段をのぼっていくように」	368人

(5) NHKハートフォーラム (摂食障害)

心の過労死とまで言われ、本人だけでなく家族まで苦しめる摂食障害を取り上げ、当事者の体験談と、内科医、臨床心理士の話を通して、回復への道筋を探った。

			参加者
3月24日	名古屋市	「摂食障害 100人100色の『回復』」	150人

(6) NHKハートフォーラム (ひきこもり)

2000年頃から社会問題化し未だに解決に至らず、高年齢化などの新たな問題も生じている「ひきこもり」をテーマに、当事者、専門家、支援者のクロストークから、理解や支援のあり方を考えた。(事業団制作教材「“ひきこもり”からの回復」を使用)

			参加者
5月21日	東京・渋谷区	「ひきこもりからの回復」	223人

(7) NHKハートフォーラム (里親・特別養子縁組)

「特別養子縁組」「里親」の推進をうたった児童福祉法の大幅改正をきっかけにして、それらの当事者、支援者、有識者の話を通して、一人でも多くの子供が家庭で育つためにもそのような仕組みを整えていく必要があるのかを考えた。

			参加者
8月5日	大阪市	「考えよう 新しい“家族”の形 ～里親・特別養子縁組は今から」	310人

(8) フォーラム「がんと生きる」

高齢化の進展によって2人に1人ががんを抱え、3人に1人ががんによって死を迎える。がん医療が進歩する中、完治を目指す治療の一方で、痛みをできるだけ減らしてい

く治療やケアが始まっている。最新の医療情報とともに、本人に寄り添う支援のありようについて、医療従事者や当事者が話し合った。

			参加者
4月23日	岡山市	「がんと生きる～こころとからだ私らしく」	927人
6月25日	鹿児島市	「がんと生きる～こころとからだ私らしく」	791人
(平成30年)			
1月27日	仙台市	「がんと生きる～こころとからだ私らしく」	649人
2月25日	大阪市	「がんと生きる～こころとからだ私らしく」	774人
			合 計：3,141人

***NHKの放送**

7月 9日 総合 鹿児島県域 (6/25実施)
(平成30年)

7月頃 全国放送 予定 (2/25実施)

(9) ハートカフェ@渋谷

福祉現場の当事者がいま課題となっているテーマを取り上げ、あるべき社会の在り方を参加者ととともに考えた。26年度からスタートした事業で、気軽に参加できる小さな規模の講演会として講師と参加者が話し合う時間を多く設け、双方向性と交流のある場とした。

「どうしたらいいの？生活保護」

3月 6日 当事者の声から考えてみよう

参加者
30人

(10) ハートカフェ@谷四

29年度は、大阪市内でハートカフェを3回実施した。

「“赤ちゃん縁組”で命つなく ～特別養子縁組のいま」

6月25日 31人

「わかってほしいカサンドラ ～二人で困難を乗り越える法」

11月18日 43人

「ちゃんと知りたい“性”の話

～支援の現場から見える発達障害のある人の恋愛事情」

3月24日 44人

合 計：148人

(11) 全国防災キャラバン「わが町のインクルーシブ防災」

どこで起きてもおかしくない地震、津波、台風、集中豪雨などの自然災害。そのたびに失われる高齢者や障害者、子どもたちなどの「災害弱者」の命。フォーラムやワークショップを通じて、誰の命も救う＝誰も取り残さないという「インクルーシブ防災」という意識を普及・啓発するイベントを、東日本大震災や熊本地震の被災地など全国3ヶ所で実施した。

6月～11月 高知県 土佐清水市立清水中学校

インクルーシブ防災の観点から、災害時にどう行動するかを「防災小説」として作成して発表し、それをもとにパネルディスカッションや避難所運営訓練などを実施。

10月15日 熊本市 尚綱学園大学

NHKハートフォーラム「熊本から訴える！ 障害者の命を守るために いまできること」
災害時にも手軽に調理できる「非常食クッキング講座」

参加者

103人

(平成30年)

2月12日 宮城・石巻市 上釜会館

東日本大震災の体験を語り合い、災害時にどう行動するかをゲーム形式で考えた。

35人

合計:138人

(12) 障害者スポーツイベント

○パラリンピアンがやってきた！子どもたちとの交流教室

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、パラリンピック選手が小学校を訪問し、子どもたちと障害者スポーツを楽しみ交流する「パラリンピアンがやってきた」を8回実施した。4年目となる29年度は、関東以外に石川・金沢市、長野・飯綱町でも実施し、子どもたちに障害への理解を深めてもらった。

参加者

6月11日	金沢市金沢プール	「水泳」	125人
6月30日	長野県飯綱町立牟礼西小学校	「ボッチャ」	64人
7月6日	千葉市立海浜幕張小学校	「シッティングバレーボール」	106人
7月10日	東京・八丈町立大賀郷小学校	「ブラインドサッカー」	115人
7月11日	東京・八丈町立三根小学校	「ブラインドサッカー」	188人
9月12日	埼玉県三郷市立新和小学校	「ブラインドサッカー」	426人
11月17日	栃木県上三川町立明治南小学校	「陸上」	143人
12月14日	千葉縣市川市立南行徳小学校	「ゴールボール」	350人

合計:1,517人

○2020東京パラリンピックを盛り上げよう ～千葉からのメッセージ～

パラリンピック東京大会まであと3年。パラリンピックの認知度を上げ、盛り上げていくにはどうしたらいいか？東京大会では幕張メッセで4競技が開催される千葉に、選手、コーチ、関係者、地元の高校生、大学生が集まり、一緒に考え提言した。

参加者

9月2日 千葉市 千葉ポートアリーナ

138人

*NHKの放送

- 9月1日 総合「ひるまえほっと」
- 2日 総合「首都圏ニュース」
- 10月22日 BS1 東京オリパラ団
「ヤングパワーでオリパラを盛り上げよう」
- 10月25日 総合 ハートネットTV
「シリーズ1000日前東京大会へ！
より速く！より強く！～2つの新競技の魅力に迫る」

○「ボッチャ東京カップ」への協力

パラリンピック東京大会に向けて普及と選手育成のために誕生した競技大会「ボッチャ東京カップ」に、選手の旅費・交通費を支援した。

来年度以降は活躍選手に事業団賞を贈呈し、パラ・アスリートへの支援を継続していく。

○第51回スポーツの集い

知的障害のある人のスポーツ競技会。重度の障害者が参加できる全国でも数少ないスポーツ大会で、東京都障害者スポーツ協会と協力して開催した。参加者は、100m競争、大

玉ころがし、綱引き、リレーなどを行った。

9月13日 東京・渋谷都 東京体育館メインアリーナ

参加者

2,500人

(13) 障害者や福祉への理解を促す事業

○福祉施設の手づくり製品や菓子の販売会

東京のNHK放送センターで、福祉施設で作られたお菓子などの販売会を6回開催した。この販売会は、放送センターで働く人たちに福祉を身近に感じてもらい、障害のある人たちの就労に少しでも役立つことをねらいに、事業団とNHK共済会が平成23年度より共同で実施している。

このうち、12月の障害者週間には「手づくりの心届けます市」と称して渋谷区9団体の製品を展示販売し、3月には東日本大震災と熊本地震の被災地の福祉施設が作った製品の販売を行った。

○福祉の仕事に就く若い人たちに向けたフォーラム

名古屋で、愛知県社会福祉協議会、NHK名古屋放送局、中日新聞社との共催で、福祉を担う若手や中堅職員が本音で語り合える場を設け、福祉現場の現状と魅力を伝えるフォーラムを開催した。

9月24日 名古屋市 「福祉の星フォーラム」

参加者

230人

(14) 第52回NHK障害福祉賞

障害のある人の体験記録や、福祉関係者、家族などの実践記録を広く社会に伝える「障害福祉賞」には435編の応募があった。選考の結果、次の実践記録が入選した。

第1部門： 障害のある本人の部門

第2部門： 障害のある人とともに歩んでいる人の部門

応募数 435編（第1部門：354編、第2部門：81編）

(入選作)

最優秀 「ことばを取り戻す」

横井 秀明 (愛知県)

優秀 (第1部門) 「今日も新しい人生が始まる・・・

高次脳機能障害からの再起」

田端 浩一 (福岡県)

「雲外蒼天」

姫野 一陽 (広島県)

(第2部門) 「私の話を聞いてください

～うつ病の親を持つ子どもより～」

菅野 春華 (岩手県)

「『おぼろの月』

～ゆうさんと一緒に歌を作る」

高木久美子 (愛知県)

矢野 賞 「補装具といつまでも」

奥津 博士 (北海道)

佳作

5 編

入選作品は「第52回障害福祉賞入選作品集」として広く頒布したほか、朗読による音声版(テープ、デジタル録音)、点字版の入選集を作成し、全国の点字図書館や視覚障害の応募者などに提供した。贈呈式は12月6日にNHK放送センターで行った。また入選作品や受賞者の思いを、12月19日、20日の「ハートネットTV」(Eテレ)や、12月7日「ラジオ深夜便」(ラジオ第1)などで紹介した。

(15) NHKハート展

■第22回ハート展

22回目の「NHKハート展」には、障害のある人が綴った詩3,641編が寄せられ、その中から選ばれた50編の詩と、その詩をもとに、各界の著名人が制作したアート作品を組み合わせせて展示した。

それぞれの想いがこもった50対の作品は、平成29年4月27日から5月6日まで東急百貨店本店で開かれた東京展をはじめ、29年度中に、静岡市、広島市、八戸市、名古屋市など全国10か所の巡回展で紹介した。

入場者は4万2,791人に上った。放送では作品の紹介や作詩者、作画者のインタビューを、Eテレの「ハートネットTV」などで取り上げた。

■巡回展 会場・入場者数 (10会場)

	会 期	会 場	入場者数
東京展	平成29年 4月27日(木)～5月6日(土)	東急百貨店本店	3,342人
札幌展	6月6日(火)～6月18日(日)	さっぽろ地下街 オーロラプラザ	12,220人
静岡展	9月16日(土)～10月1日(日)	静岡県コンベンションアーツ センターグランシップ	2,723人
徳島展	10月11日(水)～10月19日(木)	NHK徳島放送局	381人
福岡展	11月3日(金・祝)～11月12日(日)	天神地下街 イベントコーナー	5,855人
大分展	11月15日(水)～11月26日(日)	NHK大分放送局	2,052人
広島展	12月1日(金)～12月12日(火)	NHK広島放送局	2,881人
神戸展	12月14日(木)～12月24日(日)	NHK神戸放送局	381人
八戸展	平成30年 1月12日(金)～1月18日(木)	八戸ポータルミュージアム 「はっち」	5,097人
名古屋	2月2日(金)～2月14日(水)	セントラルパーク セントラルギャラリー	7,859人

合計 42,791人 (1会場平均 4,279人)

2. 高齢者福祉事業

(1) NHKハートフォーラム「めざせ！いきいき長寿」

地域社会の中で共にすこやかに生きる知恵を伝える番組「ハートネットTV めざせ！いきいき長寿」の公開収録(Eテレで放送)と、ゲスト山田邦子さんによる高齢者の健康や生き方に役立つ講演を行うイベントを全国6か所で開催した。

		参加者
5月13日	山梨県大月市	341人
6月17日	鹿児島南さつま市	492人
9月9日	北海道新冠町	229人
10月14日	岩手県滝沢市	277人
11月25日	岡山県勝央町	370人
(平成30年)		
1月20日	高知県安芸市	270人
		合 計：1,979人

(2) 認知症のフォーラム

事業団が、NHKや各種団体と協力して多様な認知症のフォーラムを全国7会場で開催し、認知症の当事者やその家族、医療、介護従事者など2,413人が参加した。

○NHKハートフォーラム(認知症)

医療・介護の最新情報や望ましいあり方、地域での支援体制の課題について話し合った。「認知症700万人 当事者と創る新時代 ～世界のトップランナーたちと～」では、前日まで京都で開かれていた「国際アルツハイマー病協会国際会議」に各国から集まった認知症当事者を招き、これからの日本でどのような支援、どのような社会が望まれるかを、専門家とともに考えた。

		参加者
4月30日	大阪市 「認知症700万人 当事者と創る新時代 ～世界のトップランナーたちと～」	434人
6月17日	鹿児島市「しあわせな人生のエンディングのために」	146人
(平成30年)		
1月27日	三重県津市 「目で見てわかる認知症ケア」	336人
2月25日	大阪市 「認知症の知識と介護の心得・実践編」	279人
		合 計：1,195人

○「地域まるごと健康フォーラム ～認知症の人の思いから始める～まちづくり」

認知症の人が住み慣れた地域で暮らしていくためには何が必要なのか？そのための情報やサポートについて、当事者、医療関係者、地域の福祉担当者らとともに話し合い啓発につとめた。

		参加者
8月6日	札幌市	472人

11月 5日 和歌山市

296人

合計：768人

*NHKの放送

10月22日 総合 北海道域（8/6実施）

12月16日 総合 和歌山県域（11/5実施）

○フォーラム認知症新時代 「いきいきと暮らすために～医療・介護・地域の支え合い～」

医療・介護の最新情報と、認知症の人と家族を支援する地域の先進的な取り組みを紹介して当事者、家族、医師、地域の人々が語り合い、地域支援の輪が広がるように努めた。

参加者

11月23日 東京都千代田区

450人

*NHKの放送

（平成30年）

2月10日 Eテレ「TVシンポジウム」

○認知症に関するパンフレットの配布

冊子「もの忘れが気になるあなたへ」（19年度作成・23万部刷成）と、冊子「家族が認知症と診断されたあなたへ～おすすめ介護術」（20年度作成・16万部刷成）、あわせて6,500部をフォーラムの参加者や希望者に配布した。

（3）認知症にやさしいまち大賞

「認知症700万人時代」を目前に控え、認知症になっても安心していきいきと暮らしていくためには、医療・介護サービスはもとより当事者の声に依拠した多様な取り組みが不可欠となっている。

こうした取り組みの社会的ムーブメント喚起をねらいに、全国から認知症にやさしい取り組みを募集し、それを専門家、有識者によって選考し表彰した。

応募は53件。その中から本賞・特別賞併せて7件を表彰した。

表彰式を一般参加者を集めて開催するとともに、受賞した取り組みなどを番組でも紹介した。

<受賞団体>

本賞 ○若年性認知症デイサービス「けやきの家」セカンドキッチンけやき

（埼玉県三芳町）

○「認知症を“見える化”する」東京 町田のDカフェ （東京都町田市）

○左京区SOSネットワーク部会 （京都市）

○若年性認知症の人と家族と地域の支え合いの会「希望の灯り」

まちかどライブラリー（大阪府堺市）

○ごぼう総活躍のまちづくりプロジェクト

西山さんから始まった地域づくり（和歌山県御坊市）

特別賞 ○大牟田本人交流会「ぼやき・つぶやき・元気になる会」福岡県大牟田市）

○ジュンク堂書店池袋本店 ブックフェア（東京都豊島区）

2月18日 東京・千代田区 表彰式

100人

* NHKの放送

2月6日、7日、15日

ハートネットTV「シリーズ 認知症に“やさしいまち”第1～3回」

2月18日 首都圏ニュース（表彰式の模様）

(4) NHK銀の雫文芸賞2017

高齢社会をどう生きるかをテーマにした小説を一般から募集した。「雫石とみ文芸賞基金」によって20年間実施してきた「銀の雫文芸賞」の成果を継承し、NHKの共催を得て、平成20年度から「NHK銀の雫文芸賞」として行っている。

作品の審査には、作家の出久根達郎さん、マンガ家の里中満智子さん、脚本家の竹山洋さん、NHKドラマ番組部長、文化福祉番組部長があたった。713編の応募があり以下の3編が入選した。

入選作品は、「NHK銀の雫文芸賞2017作品集」として製本し、広く頒布した。

最優秀 『さくら、ねこ、でんしゃ』 のらいし れんふう（プロフィール非公開）

優 秀 『源三さんの特別な日』 宮坂 朝子（長野県）

『年賀状』 牧 康子（東京都）

最優秀の のらいしれんふうさんの作品『さくら、ねこ、でんしゃ』はラジオドラマ化し、9月30日「FMシアター」で放送した。

(5) NHK介護百人一首

日々の介護の様子や思いなどを詠んだ短歌を募集して珠玉の作品を選び、「介護百人一首2018」として作品集にまとめた。12回目になる29年度は、13歳から102歳までの幅広い年齢層から12, 234首の応募があった。

入選作品は、Eテレ「ハートネットTV」で、年間を通じて定期的に紹介されるほか、パネルにして30年度に各地の放送局などで展示する。

3. 東日本大震災の復興を支援する事業

(1) 「わかば基金」で東日本大震災被災地の福祉グループを支援

地域福祉を支援する「わかば基金」に設けている「東日本大震災復興支援部門」を通じ、29年度も引き続き被災地で活動する福祉グループの取り組みや、新たな事業を行うための支援を行った。22グループから申請があり4グループに支援金を贈った。支援先は、復興住宅で被災地どうしのコミュニケーションを促す活動をするグループや、障害のある子どもたちが絵画や陶芸などの創作活動をするためのアトリエを運営するグループ、被災した障害者の就労支援に取り組みグループなど。

⇒6.(1)参照

(2) “明日へ”のテーマ曲「花は咲く」の著作権料による義援金など

29年度もNHK東日本大震災プロジェクトの復興支援ソング「花は咲く」の楽曲著作権料2,374万円を義援金として被災地へおくれた。

また、東日本大震災や熊本地震で被災した福祉作業所が作った菓子や名産品の販売会を3月8日に東京の放送センターで行った。

4. 福祉情報の提供事業

(1) 福祉ライブラリー活動

「福祉ライブラリー」はNHKの福祉番組を複製して貸し出すもので、事業団創立以来の基幹事業の一つである。ラインナップも多様で教育や福祉の現場で活用されている。

○福祉ビデオライブラリー

29年度に新しくライブラリー化した番組は20。「ハートネットTV」などテレビの福祉番組や、「NHKスペシャル」など視聴者から反響の大きかった番組、福祉の学習に役立つ番組をDVDに複製した。また、事業団が制作した福祉DVD教材もライブラリーに加えた。

20年度からパソコンを使っていつでも予約ができるオンライン予約システムを導入し、現在、その登録者は8,474人で、昨年度より737人増加した。電話申し込みを含めた申し込み全体に対するオンライン予約の割合は63%である。

年間の貸出利用は4,164本。おもな利用者は、福祉関係の大学・専門学校や、福祉の現場で働く人、障害児の親や障害者本人、介護に携わっている家族、ボランティア団体などである。

利用した人が特に多かったソフトは、事業団制作の福祉DVD「“ひきこもり”からの回復」（278本）。次に多かったのは「発達障害の子どもたち～“自立”をめざして～」（160本）、「うつ病」（132本）、「大人の自閉症スペクトラム」（122本）、「認知症ケア」（77人）で、いずれも事業団制作のDVD3巻シリーズだった。

また「認知症」「介護」「発達障害」を取り上げたNHK番組のライブラリーの利用も多くあった。

29年度 複製番組数	ライブラリー保有番組数	年間利用数
20番組	535番組	4,164本(枚)

◎これまでの利用数累計：19万2,843本

○聴覚障害者向け字幕ビデオライブラリー

NHKの字幕放送の拡充にあわせ、聴覚障害者向けサービスとして平成15年度から行っている。29年度は、「ハートネットTV リハビリ介護を生きる おひとりさまの自分介護（1）要介護になっても一人で暮らす」、「認知症キャンペーン 認知症介護 家族の悩みに答えます」、「すくすく子育て 発達障害?と思ったとき」など5本を字幕化した。ライブラリーは通算95番組で、全国59の聴覚障害者関係施設と当事業団で貸し出しを行っている。

○視覚障害者のための音声ライブラリー

文芸作品や古典の名作を朗読したNHKの番組を複製して、全国47か所の委託施設で貸し出しを行っている。各地の点字図書館でデジタル図書での貸し出しが一般的になっているため、平成20年度からソフト作成をテープからデジタル録音のDAISYに切り替えている。

29年度はNHKの『ラジオ文芸館』から「煮ごり」（井上 荒野）、「時計の傷」（伊集院 静）など4作品を、『朗読』から「江戸川乱歩 パノラマ島奇談」、『古典講読』から「むかし語りへのいざない～宇治拾遺物語」を複製した。

また、視覚障害者団体からの要望を受けて、新たに文化庁 芸術祭の優秀賞を受賞したラジオ・ドラマ「ふたりの娘」「ほかの誰でもないアヤコ」（いずれもNHKの『FMシアター』で放送）と、銀の零文芸賞2016の最優秀作品「散歩道」のラジオドラマ3本も複製した。

貸し出し利用は年間4,400本あまりで、「ラジオ文芸館」などの現代の作品に人気があった。

29年度 複製作品数	年間利用本数
4番組 9作品	4,468本(枚)

◎これまでの利用数累計：198万2,070本

（2）福祉DVD教材「優しい認知症ケア ユマニチュード」の制作

2025年には700万人にのぼると予測される認知症。介護家族が認知症の人と向き合う際の最大の悩みが暴言や徘徊などの行動。これらを和らげるプロのケア技術をだれでも実践でき

るよう体系化したのが、フランス生まれの認知症ケア「ユマニチュード」。

今後在宅での認知症介護が課題になる機をとらえて、家庭でも実践できるケア技術「ユマニチュード」を、考案者のイヴ・ジネスト氏や専門家の解説と映像で分かりやすく伝えるDVD教材として制作し、認知症に優しい共生社会の実現に貢献する。

福祉DVD教材（テキストつき）は3枚組で700セット制作し、認知症疾患医療センターに指定された全国の病院や、精神保健福祉センター、「認知症の人と家族の会」などの希望する所に無料で配布し、役立ててもらおう。

また事業団の「福祉ビデオライブラリー」でも貸し出しを行い、より多くの人に活用してもらおう。

（各巻の内容）

第1巻 「ユマニチュードって何だろう ～入門編～」

第2巻 「ユマニチュードをやってみよう ～実技編～」

第3巻 「私のユマニチュード ～家族の実技編～」

監修：イヴ・ジネスト（ユマニチュード考案者）、本田 美和子（国立病院機構 東京医療センター 総合内科医長）

なお、本事業はJKAの補助金を得て実施した。

（3）「認知症」「思春期のこころの病」「がん患者のための体と心の緩和ケア」の冊子を希望者へ配布

○「もの忘れが気になるあなたへ」

（監修：小阪憲司 横浜市立大学名誉教授）

認知症はどんな病気か、治療法や予防法、相談窓口などを分かりやすくまとめたもので、発行数は23万部となった。

○「家族が認知症と診断されたあなたへ～おすすめ介護術～」

（監修：須貝佑一 認知症介護研究・研修東京センター 研究部長）

認知症の介護のポイントを症状別に解説したもので、発行数は16万部。

29年度は、認知症の両冊子あわせて6,500部をフォーラムの参加者や希望者に無料で配布した。送料は利用者負担。

○「思春期のこころの病～“悩み”と“病”の見分け方～」

（監修：青木省三 川崎医科大学精神科学教室教授）

思春期特有の精神疾患の見分け方と対応について啓発する冊子で11万部作成。

27年度に在庫がなくなったが、ホームページで見られるようにし、個人のほか、学校や勉強会をするNPOなどにも利用してもらっている。

○「がん患者のための体と心の緩和ケア

～痛みと悩みをやわらげて自分らしい療養生活を送るために～

(監修：的場元弘 青森県立中央病院 緩和医療科 部長)

がん患者の体の痛みや心の苦しみを和らげる「緩和ケア」について、病院や相談機関の情報を含めて解説したもので4万部を作成。29年度は希望者に255部を配布した。

5. チャリティー事業

年間を通して数々のチャリティーを行った。29年度のチャリティーイベントは以下の通り。

「※」印は物品などの贈呈をした催しで、詳細は6.(4)に記載

(1) NHK番組公開チャリティー

催物名	期 日	会 場	売上高 等 (単位：千円)
歌謡チャリティーコンサート (2回) ※	4月14日 10月13日	郡山市民文化センター 大ホール (福島県郡山市) コラニー文化ホール (甲府市)	(売上高) 20,220
おかあさんといっしょ ファミリーコンサート ＜東京公演＞ (16回 8日×2回)	5月3日～6日 11月2日～5日	NHKホール	(寄付額) 6,042
おかあさんといっしょ ファミリーコンサート ＜地方公演＞ (28回)	7月8日 ～ 30年3月3日	群馬県桐生市ほか 全国11か所	(寄付額) 9,733 ＜30年度入金予定＞
いないいないばあ! あつまれ!ワンワンわんだ ーらんど (26回)	4月9日 ～ 30年3月11日	神奈川県秦野市 ほか 全国10か所	(寄付額) 8,194 ＜30年度入金予定＞

(2) 事業団企画チャリティー

催し物名	期 日	会 場	売上高 等 (単位：千円)
第50回日本陶芸倶楽部会員 チャリティー作品発表展	5月24日～29日	日本橋三越本店	(寄付額) 2,066
NHK厚生文化チャリティー 一展 (2回)	11月8日～14日 12月13日～19日	名古屋 三越栄店 津 松菱	(売上高) 9,885
障害者のための女流義太夫	12月16日	紀尾井小ホール	(寄付額)

チャリティー演奏会			144
N響「第9」チャリティーコンサート	12月26日	NHKホール	(売上高) 25,712
第51回NHK福祉大相撲 ※	30年2月10日	両国 国技館	(売上高) 22,966

6. その他の支援事業

(1) 第29回 地域福祉を支援する「わかば基金」

あすの福祉の芽を育てる「わかば基金」は、福祉の分野で地道に活動を続けているグループを支援するために設けられたもので、今回で29回目を迎えた。

24年度から、東日本大震災の被災地で活動している福祉グループに支援金を贈る「東日本大震災復興支援部門」を設けており、29年度は22のグループから申請があった。

また、「支援金部門」には253グループ、「リサイクルパソコン部門」には108グループから申し込みがあった。

「リサイクルパソコン部門」は、NHKやNHK関連団体から不用になったパソコンを寄贈してもらい、新しいアプリケーションソフトを入れた上で必要としている福祉団体に贈呈するもので、NHKグループの社会貢献活動となっている。

選考委員会を経て、全国18グループに総額946万円の支援金、20グループに50台のパソコンを贈った。また、被災地には4グループに236万円の支援金を贈ることができた。支援総額は、パソコン費用を含め1,364万円。

なお、初回からの贈呈件数は709に上る。

<支援金部門 支援先>*18グループ *支援金総額：946万円

北海道千歳市	点訳絵本の会	絵本、展示用透明シート 他	20万円
北海道本別町	NPO法人ほんべつつつじの園	自動名刺カッター	25万円
東京都豊島区	NPO法人楽の会リーラ	ウェブサイト制作費	35万円
神奈川県藤沢市	NPO法人laule'a	タブレットPC	12万円
新潟市	新津点訳奉仕会まどかグループ	点字プリンター	84万円
新潟市	NPO法人らびすらずり	スクーター	34万円
長野県飯山市	飯山市認知症キャラバン・メイト連絡会	プロジェクター	14万円
岐阜県中津川市	NPO法人おたがいさま	車両	100万円
富山市	NPO法人コーポラティブハウス木の実	ソーラーフードドライヤー	25万円
富山県立山町	NPO法人知的障害者の暮らしを考える会	チェーンソー	84万円

京都市	NPO法人セカンドハーベスト京都	米用冷蔵庫	83万円
大阪市	NPO法人Homedoor	アルコールチェッカー	76万円
和歌山県田辺市	NPO法人ころん	担架、救急用品	62万円
神戸市	Link	AED訓練用マネキン	14万円
福岡県行橋市	NPO法人フリースクール風の里	ユニットハウス	73万円
熊本市	化学物質過敏症患者会 くまもとCSの会	VOC測定器	56万円
熊本県菊池市	NPO法人夢のかけら舎	エアコン	52万円
鹿児島市	NPO法人ファーマーズボーダー	業務用シンク	97万円

<リサイクルパソコン部門 支援先>*20グループ *リサイクルパソコン贈呈:50台

北海道室蘭市	パソコンボランティアプラザ室蘭		3台
青森県十和田市	NPO法人農楽郷ここ・カラダ		3台
宮城県柴田町	柴田町点訳サークル『ほたる』		3台
福島市	NPO法人福島就労支援センター		2台
栃木県足利市	音訳グループねいろ		2台
千葉県成田市	コスモスの会		3台
東京都北区	NPO法人Asia Commons亜洲市民之道		3台
東京都渋谷区	NPO法人PIECES		3台
新潟市	失語症友の会 新潟つくしの会		1台
静岡市	NPO法人地域生活支援サービス まあぶる		1台
静岡県浜松市	ひきこもりサポートセンターこだま		3台
滋賀県守山市	認定NPO法人四つ葉のクローバー		2台
京都市	NPO法人ゆに		3台
大阪府吹田市	点訳グループ「あい」		1台
兵庫県三田市	要約筆記ボランティア「三田サマリー」		3台
福岡市	テキスト訳グループ「あいフレンド」		3台
福岡市	朗読の会セブン		3台
佐賀県基山町	朗読ボランティアグループ虹の会		2台

長崎県長与町	パソコン要約筆記“pcながさき”		3台
熊本県天草市	NPO法人ワークショップひなたぼっこ		3台
<東日本大震災復興支援部門 支援先>*4グループ *支援金総額：236万円			
宮城県石巻市	NPO石巻広域クリエイティブアートの会	ペンギンアート工房	
		さをり織機	41万円
仙台市	仙つかえりびなの会	ミシン	19万円
仙台市	NPO法人20世紀アーカイブ仙台	プロジェクター	77万円
福島県郡山市	NPO法人しんせい	車いす対応花壇	99万円

(2) NHK歳末たすけあい・NHK海外たすけあい

「平成29年度NHK歳末たすけあい・NHK海外たすけあい」を、NHK、中央共同募金会、日本赤十字社と共催で12月1日～25日の間実施した。

「歳末たすけあい」の義援金は、中央共同募金会を通じて被災した福祉施設への支援、障害のある人や、援助や介護を必要とするひとり暮らしのお年寄り、援助を必要とする子どもたち、長期療養生活をしている人や生活が困難な世帯などに配分される。

「海外たすけあい」では、日本赤十字社が赤十字国際機関と協力し、紛争や自然災害に苦しむ人たちのために使われる。

受付件数・金額（全国集計）

	NHK歳末たすけあい		NHK海外たすけあい	
	件数	金額	件数	金額
平成28年度	4万1,332件	5億3,099万3,105円	8万1,331件	7億447万6,254円

(3) 「災害たすけあい」受け付けの実施

事業団ではNHK、日本赤十字社、共同募金会とともに、大規模な災害が起こった際に、その都度「災害たすけあい」を実施している。29年度は、秋田県の大雨災害と、三重県の台風災害の際に実施した。

	期 間	日数	件数	金 額
秋田県大雨災害救援金	平成29年7月27日 ～8月31日	36日	1,454 件	7,001万9,555円
台風21号三重県災害 義援金	平成29年10月31日 ～平成30年1月31日	93日	736 件	3,133万1,055円

(4) 物品などの寄贈

○NHK福祉大相撲による「福祉相撲号」の寄贈

30年2月10日に開催した「第51回NHK福祉大相撲」(入場者4,186人)の純益により福祉車両「福祉相撲号」5台を購入し、これに協力団体からの寄贈1台と合わせて合計6台を障害のある人たちの療育活動や、お年寄りのデイケアなどの活動を行っている施設・団体に寄贈した。

「NHK福祉大相撲」の様子は、2月18日 総合テレビで放送した。

<贈呈先>

社会福祉法人	福音会	ワークセンター麦	(福島県須賀川市)
社会福祉法人	河内四つ葉会	よつば荘	(宇都宮市)
社会福祉法人	健和会	デイサービスセンター パークレジデンス	(三重県東員町)
社会福祉法人	誠光福祉会	特別養護老人ホーム えんゆうの里	(滋賀県草津市)
社会福祉法人	十字会	障害者支援施設 博愛ヴィレッジ	(徳島県みよし町)
社会福祉法人	共栄福祉会	福祉型障害児入所施設 若久緑園	(福岡市)

○「歌謡チャリティーコンサート」による寄贈

■4月14日、福島県郡山市で開催した「歌謡チャリティーコンサート」(入場者1,793人)の純益で「車いす付き介護浴槽」を購入し、福島県内3か所の高齢者福祉施設に贈呈した。

コンサートは5月2日、総合テレビで放送した。

<贈呈先>

社会福祉法人	愛星福祉会	特別養護老人ホーム 星ヶ丘ホーム	(郡山市)
社会福祉法人	陽光会	特別養護老人ホーム 陽光園	(福島市)
社会福祉法人	光美会	デイサービスセンター 人生の里	(いわき市)

■10月13日、甲府市で開催した「歌謡チャリティーコンサート」(入場者1,472人)の純益で、山梨県はじめ全国の障害者スポーツ団体・施設に障害者スポーツ用具を贈呈した。

コンサートは11月28日、総合テレビで放送。

(5) 催物への招待

事業団の催し物の開催時に、視覚障害の人や知的障害のある人など477人を招待した。

			招待者
12月26日	N響「第9」チャリティーコンサート	NHKホール	140人
(平成30年)			
2月10日	NHK福祉大相撲	両国 国技館	337人
			合計: 477人

7. 広報活動

事業団の活動を周知するために事業内容を紹介した印刷物をイベント会場で配布し、福祉活動への理解と協力を求めた。またホームページやフェイスブックでは、催し物の周知や活動報告などを分かりやすく伝え、ネット時代にふさわしい広報活動に努めた。

(1) 広報物の作成・配布

- NHK厚生文化事業団年報「障害者、高齢者にやさしい社会をめざして」を発行して、事業団の福祉活動への理解促進を図った。
- 事業団の業務を紹介したパンフレット「あなたのやさしさを必要な人にとどけます」を作成して、イベント会場などで配布した。また会場では、イベントのテーマにそった冊子を配るほか、事業団作成の福祉DVD教材や福祉ビデオライブラリーの利用案内などのチラシも配布した。
- NHKの放送やニュースで事業団の催しを紹介した。また、外部メディアへの情報提供を積極的に行い、新聞・雑誌などで事業の予定や活動内容が紹介された。

(2) 広報活動の強化にホームページの拡充

- 事業団の活動をより多くの人に知ってもらい、活用してもらうため、「最近の活動内容」や、「募集事業の案内」、「福祉ビデオライブラリーの新着情報」などをきめ細かく提供するとともに、ビジュアルでわかりやすい画面構成に努めた。

掲載している主な内容は、

- ・事業団の「催し物の予定」や「実施事業の報告」
- ・事業団が制作した冊子の内容。「認知症」や「がん緩和ケア」など
- ・「NHK障害福祉賞」や「NHK銀の零文芸賞」の入選作品の紹介
- ・「わかば基金」で支援した福祉団体の活動をレポートする「わかばなかま」
- ・「福祉ビデオライブラリー」の目録や予約システム
- ・寄付について

など多岐にわたる。

- ホームページの利用者からメールで寄せられたさまざまな問い合わせには、各担当者が即応するよう努めた。

8. リスクマネジメントとコンプライアンス

(1) 中期経営計画の策定

2020年までの中期経営計画を策定し、この中でNHKとの連携の強化、パラリンピック東京大会と事業団創立60周年に向けた事業の展開、働き方改革、向こう3年間の収支見通しなどを示した。

(2) 改正社会福祉法への対応

29年4月から全面施行された同法の趣旨に沿って、①経営組織のガバナンスの強化
②業務運営の透明性の向上 ③財務規律の強化に取り組んだ。

評議員会を設置し、理事・理事長に対する牽制機能を発揮させることにしたほか、計算書類、現況報告書、役員報酬等の支給基準を公表するとともに内部留保の明確化に努めた。

(3) 業務の適正を確保するための体制の評価

全社的な内部統制について、「統制環境」「リスクの評価と対応」「統制活動」「情報と伝達」「モニタリング」「ITへの対応」という6つの観点から、整備状況および運用状況の有効性を評価した。また、業務上重要なリスクを抽出した上で、必要な対応(内部統制)が実施されていることを評価した。

評価の結果、平成30年3月31日時点における事業団の内部統制は、概ね有効であると判断した。

(4) 内部監査の実施

近畿・中部・九州の各支局を対象に総務部の監査を実施し、個人情報の扱いについても点検した。また、NHK内部監査室調査を受け、NHKと連携してガバナンスの強化に取り組んだ。

(5) 各種研修の実施

NHK放送研修センターの「事例に学ぶコンプライアンス研修」への参加や、外部講師を招いて事業団独自で開催した「情報セキュリティ研修」の受講などを通して、全役職員でリスクマネジメントの強化に努めた。

9. 後援、協賛した事業

福祉、教育、医療団体などが実施する研修、啓発事業、また美術、スポーツ団体などが福祉目的で開催するチャリティー事業に積極的に協力し、本部・支局合わせて155件の事業を後援、協賛した。

○福祉関連の催し（120件）

「自閉症啓発デー2017」「第45回日本車椅子バスケットボール選手権大会」

「高校生ボランティアアワード」「福祉の就職総合フェア2017 in OSAKA」

「第57回愛知県身体障害者福祉大会」

などを後援、協賛した。

○チャリティー催し物（35件）

「国展」「春陽展」「東光展」「二科展」「三多摩総合舞踊発表会」「チアリーディング日本選手権大会」「KEIRINグランプリ2017」「手工芸作品展」「手づくりフェア in 九州」などのチャリティー催しを後援し、その益金から事業団へ寄付をいただいた。

10. 寄付金

当事業団への寄付金には二種類ある。個人や団体からのご寄付である一般寄付金と、当団が主催、後援、協賛したチャリティー事業からのご寄付であるチャリティー寄付金である。

29年度は、

一般寄付金が	247件	6,154万7,249円
チャリティー寄付金が	54件	5,929万6,713円
寄付金総額は、	301件	1億2,084万3,962円

に上った。

11. 賛助会員・維持会員等

賛助会員は一般法人に広く協力を求め、本年度は1団体1口の新規入会があった。しかし業績不振等により、減額1団体1口、退会7団体7口の申し出もあり、合わせて133団体から1,980万円の支援を受けた。

個人からの継続寄付者を含む維持会員等については、NHKおよびNHK関連団体役員、NHK旧友会員など6,002人の方々の協力を得て、その額は1,024万4,000円に達した。

[特別賛助会員]

- | | | |
|---------|--------------|----------------|
| ・第一生命保険 | ・日立製作所 | ・富士通 |
| ・みずほ銀行 | ・NHKエンタープライズ | ・NHKメディアテクノロジー |

[賛助会員]

- | | | |
|-----------------|-----------------|----------------|
| ・愛知県農業協同組合中央会 | ・アットホーム | ・アーチェリープロダクション |
| ・アーティストハウスピラミッド | ・葵設備工事 | ・アフラック |
| ・池上通信機 | ・石川近鉄タクシー | ・岩谷産業 |
| ・岩手ホテルアンドリゾート | ・栄光舎 | ・エクサート松崎 |
| ・荏原冷熱システム | ・遠藤波津子美容室 | ・大阪ガス |
| ・岡谷鋼機 | ・オフィスプロペラ | ・勝亦電機製作所 |
| ・加藤電気工業所 | ・川崎重工業 | ・川嶋印刷 |
| ・北日本モーター | ・木下サーカス | ・近物レックス |
| ・近鉄タクシー | ・KDDI | ・江綿 |
| ・国際自動車 | ・コメリ | ・近藤産興 |
| ・さくら組 | ・サンセイ | ・シーズコーポレーション |
| ・ジーズ・コーポレーション | ・ジェイアール東海高島屋 | ・JTS |
| ・島精機製作所 | ・ジャパネットホールディングス | ・小学館 |
| ・白川プロ | ・新日本空調大阪支店 | ・スギヤス |
| ・スタービーイング | ・スマートコンセプト | ・住友電気工業 |
| ・住江織物 | ・全国大陶器市振興組合 | ・全国陶器祭振興会 |
| ・セントラルスポーツ | ・全日本空輸 | ・ゼンリン |
| ・総合システム管理 | ・ダイキン工業 | ・大和自動車交通 |
| ・大和証券 | ・宝塚舞台 | ・タカラベルモント |
| ・津幡技研工業 | ・ツマガリ | ・ツムラ |
| ・つむら工芸 | ・帝産キャブ名古屋 | ・帝都自動車交通 |
| ・電気興業 | ・東京海上日動火災保険 | ・東芝インフラシステムズ |
| ・東新紙業 | ・トヨタ自動車 | ・豊田スタジアム |
| ・名古屋三越 | ・西川 | ・日産自動車 |
| ・日産自動車販売 | ・日本医師会 | ・日本音楽事業者協会 |

- ・日本音楽著作権協会
- ・日本ゴルフツアー機構
- ・ネイチャー
- ・花岡無線電機
- ・阪急電鉄
- ・日立国際電気
- ・福建社
- ・丸徳産業
- ・三菱UFJ信託銀行
- ・モリタホールディングス
- ・ランドマークプロダクツ
- ・NHKアート
- ・NHK営業サービス
- ・NHKグローバルメディアサービス
- ・NHKビジネスクリエイト
- ・NHK文化センター
- ・日本国際放送
- ・放送衛星システム
- ・日本ガイシ
- ・日本たばこ産業
- ・野村證券
- ・バリュープランニング
- ・PL東京健康管理センター
- ・日の丸自動車
- ・ホテルオークラ東京
- ・ミス・パリス
- ・明電舎
- ・森平舞台機構
- ・リンレイ
- ・NHKアイテック
- ・NHKエデュケーショナル
- ・NHKサービスセンター
- ・NHKプラネット
- ・NHK放送研修センター
- ・日本放送協会学園
- ・日本交通
- ・日本電気
- ・バーニングプロダクション
- ・阪急産業
- ・ヒサヤ大黒堂
- ・福家書店
- ・丸一鋼管
- ・三井住友信託銀行
- ・メデア21
- ・ヨコシネディーアイエー
- ・WOWOW
- ・NHKインターナショナル
- ・NHKエンジニアリングシステム
- ・NHK出版
- ・NHKプロモーション
- ・共栄サービス
- ・日本放送協会共済会

(H30.3.31現在)

12. 役員

(1) 役員体制 (平成30年3月31日現在)

理事長	鈴木 賢一	
常務理事	大島 勉	
理事 (非常勤)	荒木 利幸	(日本放送協会制作局長第2制作センター長)
理事 (非常勤)	板野 裕爾	(株式会社NHKエンタープライズ代表取締役社長)
理事 (非常勤)	上野 一彦	(東京学芸大学名誉教授)
理事 (非常勤)	大美 慶昌	(日本放送協会視聴者総局事業センター長)
理事 (非常勤)	小山内 美江子	(シナリオライター)
理事 (非常勤)	伍藤 忠春	(公益財団法人日本障がい者スポーツ協会評議員)
理事 (非常勤)	中村 吉夫	(社会福祉法人聴力障害者情報文化センター理事長)
理事 (非常勤)	橋本 正明	(社会福祉法人至誠学舎立川理事長)
監事 (非常勤)	松尾 正	(株式会社NHKアイテック取締役)
監事 (非常勤)	中島 謙次	(社会福祉法人中央共同募基金会常務理事)

(2) 理事および監事に支払った報酬等の額

当該事業年度における当事業団の理事および監事に対する報酬等の内容は、以下のとおり。

対象者	人数	報酬の額
理事	11人	2,935万円
監事	2人	3万円

- 注) 1. 上記人数には、当期中に退任した非常勤理事1名が含まれる。
2. 理事及び監事のうち、NHK及びNHK関連団体の役職員としての立場を有する者に対しては、報酬を支給していない。